

一関市における品質管理（QC）検定の導入・活用の紹介

岩手県一関市

商工労働部工業振興課 千葉 功一

1 岩手県一関市の概要

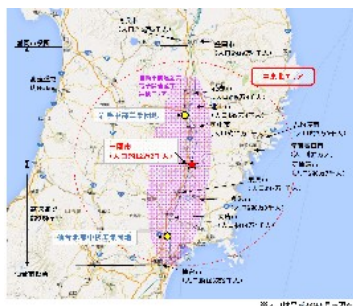
一関市は、平成 17 年 9 月 20 日に一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村及び川崎村の 1 市 4 町 2 村が新設合併し、その後、平成 23 年 9 月 26 日に藤沢町と編入合併しました。

東北のほぼ中心に位置し、仙台市と盛岡市の間に位置し、古くから高速道路や新幹線に直結する交通の要衝として栄え、岩手県南及び宮城県北エリアの中核都市として発展してきました。人口 11 万 1,932 人(令和 2 年国勢調査速報値)、面積 1,256 k m²、市域は東西約 63 k m、南北約 46 k m の広がりがあり、人口が県内で第 3 位、面積が県内で第 2 位の規模となっています。宮城、秋田の両県に隣接し、市内には 3 県にまたがる栗駒山、猊鼻渓や巖美溪の名勝地、一関温泉郷などの観光地があり、世界遺産登録の平泉町や三陸方面への観光拠点ともなっています。

県内有数の産業拠点として事業所数、従業者数、製造品出荷額、粗付加価値額のいずれも県内トップクラスにあります。仙台市から北上川流域は、自動車関連産業や電子関連産業の集積が進んでいます。

●一関市の工業の主要指数（令和 3 年工業統計調査）

1. 事業所数	223 社	県内 2 位
2. 従業者数	10,452 人	県内 2 位
3. 製造品出荷額	1,894 億 9,335 万円	県内 5 位
4. 粗付加価値額	851 億 2,371 万円	県内 5 位



一関市役所

〒021-8501 岩手県一関市竹山町 7-2

電話 0191-21-2111（代表）

<http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>

2 QC 検定導入の経緯

当市では、工業の目指すべき方向性を明らかにし、地域の特性や資源を活かした独創性のある工業振興施策を展開することを目的として、5か年計画で一関市工業振興計画（注1）を策定（令和4年度から8年度）しており、一関市工業戦略推進会議において、毎年度事業の進捗管理や評価・点検を行っております。

QC検定は、平成22年にこの工業振興戦略推進会議（企業・高専・県等が委員）において、一関市内を会場とした試験の誘致について提案いただいたことをきっかけとして導入することになったものです。その当時、東北の試験会場は仙台市のみであり、団体受検として、市内企業等の受検者の負担軽減を図るため、また、ものづくり人材育成を工業振興計画の戦略の1つに掲げている当市の取組みとして、平成23年度から実施しており、自治体と研究機関が運営主体となり実施するのは全国で初めてでありました。

現在、高品質・高付加価値のものづくり産業の育成支援の一環とし、公益財団法人岩手県南技術研究センター（注2）に事業を委託しており、試験の実施と併せ、資格取得を支援するための支援講座を開講し（表1）、合格率の向上を図っています。

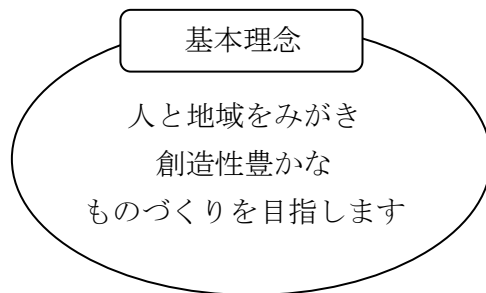
表1. 品質管理検定2～4級取得支援講座開催実績（会場：岩手県南技術研究センター）

年度	内容及び受講者数			合計
H23	2級(1回、8日間)8名	3級(2回、計4日間)33名	4級(2回 計4日間)15名	56名
H24	2級(1回、8日間)14名	3級(3回、計6日間)53名	4級(1回、2日間)17名	84名
H25	2級(1回、8日間)15名	3級(3回、計6日間)32名	入門(1回、3日間)14名	61名
H26	2級(1回、8日間)13名	3級(2回、計6日間)38名	入門(1回、3日間)20名	71名
H27	2級(1回、8日間)12名	3級(2回、計6日間)34名	入門(1回、3日間)20名	66名
H28	2級(1回、8日間)13名	3級(2回、計6日間)37名	入門(1回、3日間)20名	70名
H29	2級(1回、8日間)5名	3級(2回、計6日間)36名	入門(1回、3日間)9名	50名
H30	2級(2回、10日間)11名	3級(2回、計6日間)30名	入門(1回、3日間)11名	52名
R1	2級(1回、2日間)5名	3級(4回、計14日間)46名	入門(1回、3日間)12名	63名
R2		3級(3回、計9日間)24名	入門(1回、3日間)7名	31名
R3		3級(3回、計9日間)32名	入門(1回、3日間)7名	39名
R4		3級(3回、計9日間)35名	入門(1回、3日間)6名	41名
R5		3級(3回、計6日間)16名	入門(1回、3日間)6名	22名

※県南技術研究センター調べ

(注1) 一関市工業振興計画の6つの戦略

- 戦略1 デジタル人財の確保
- 戦略2 イノベーション人財の育成
- 戦略3 地域内発産業の振興
- 戦略4 産学官金連携による地方創生の推進
- 戦略5 地域企業の技術力・経営力の強化
- 戦略6 企業・事業誘致の推進



(注2) 公益財団法人岩手県南技術研究センター

平成7年設立。当時の両磐地区9市町村と企業が出捐を行い、敷地は一関市が、施設は岩手県が整備を行い、技術相談、共同研究や企業の人材育成、地域連携に取り組んでいます。また、医工連携、農商工連携及び産学官連携に係る地域企業の相談窓口となり、企業間の連携や企業と一関工業高等専門学校及び行政機関とのマッチング支援や、隣接する市の貸し研究室「研究開発プラザ」の管理（平成19年度から）を行うなど産業支援センターとして一関市の産業振興の一端を担っています。

3 QC検定受検者の状況・実績

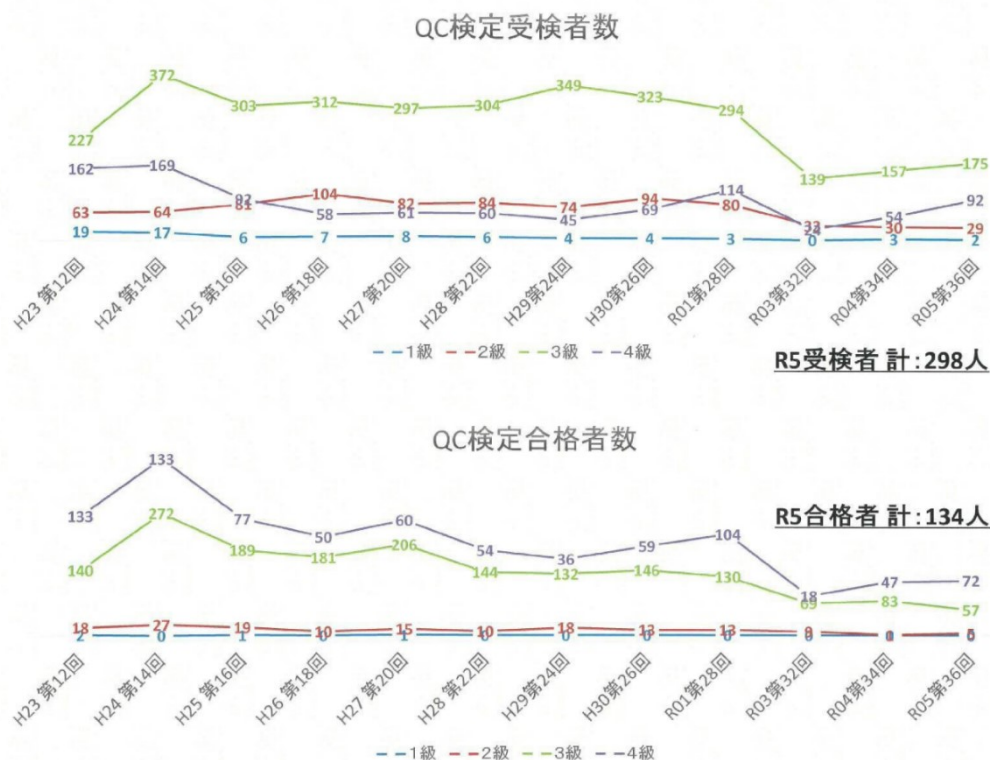


図1. 各回の受検者数と合格者数のグラフ

表 2. 各回の受検者数と合格者数

年度 / 回	月 日	受検者数	合格者数
H23 (第 12 回)	9 月 4 日 (日)	471 名 1 級 19 名、2 級 63 名 3 級 227 名、4 級 162 名	293 名 1 級 2 名、2 級 18 名 3 級 140 名、4 級 133 名
H24 (第 14 回)	9 月 9 日 (日)	622 名 1 級 17 名、2 級 64 名 3 級 372 名、4 級 169 名	432 名 1 級 0 名、2 級 27 名 3 級 272 名、4 級 133 名
H25 (第 16 回)	9 月 1 日 (日)	482 名 1 級 6 名、2 級 81 名 3 級 303 名、4 級 92 名	286 名 1 級 1 名、2 級 19 名 3 級 189 名、4 級 77 名
H26 (第 18 回)	9 月 7 日 (日)	481 名 1 級 7 名、2 級 104 名 3 級 312 名、4 級 58 名	241 名 1 級 0 名、2 級 10 名 3 級 181 名、4 級 50 名
H27 (第 20 回)	9 月 6 日 (日)	448 名 1 級 8 名、2 級 82 名 3 級 297 名、4 級 61 名	282 名 1 級 1 名、2 級 15 名 3 級 206 名、4 級 60 名
H28 (第 22 回)	9 月 4 日 (日)	454 名 1 級 6 名、2 級 84 名 3 級 304 名、4 級 60 名	208 名 1 級 0 名、2 級 10 名 3 級 144 名、4 級 54 名
H29 (第 24 回)	9 月 3 日 (日)	472 名 1 級 4 名、2 級 74 名 3 級 349 名、4 級 45 名	186 名 1 級 0 名、2 級 18 名 3 級 132 名、4 級 36 名
H30 (第 26 回)	9 月 2 日 (日)	490 名 1 級 4 名、2 級 94 名 3 級 323 名、4 級 69 名	218 名 1 級 0 名、2 級 13 名 3 級 146 名、4 級 59 名
R1 (第 28 回)	9 月 1 日 (日)	491 名 1 級 3 名、2 級 80 名 3 級 294 名、4 級 114 名	247 名 1 級 0 名、2 級 13 名 3 級 130 名、4 級 104 名
R2 (第 30 回)	中止		
R3 (第 32 回)	9 月 5 日 (日)	196 名 1 級 0 名、2 級 33 名 3 級 139 名、4 級 24 名	96 名 1 級 0 名、2 級 9 名 3 級 69 名、4 級 18 名
R4 (第 34 回)	9 月 4 日 (日)	229 名 1 級 3 名、2 級 25 名 3 級 148 名、4 級 53 名	131 名 1 級 0 名、2 級 1 名 3 級 83 名、4 級 47 名
R5 (第 36 回)	9 月 3 日 (日)	298 名 1 級 2 名、2 級 29 名 3 級 175 名、4 級 92 名	196 名 1 級 0 名、2 級 33 名 3 級 139 名、4 級 24 名

※県南技術研究センター調べ

4 おわりに

QC検定の市内実施により、市が品質管理分野に重点的に取り組んでいることのPRに繋がり、また、企業の品質管理技術が蓄積されることで、製品の高品質化、高付加価値化が図られています。

また、市内のみならず、岩手県南・宮城県北の企業の方々や市内の工業高校の生徒、高専の学生など、受検者の負担軽減が図られるとともに、企業ニーズに応じた取得支援講座の開講と合わせ、ものづくり人材の育成と意欲向上を担っております。

市、岩手県南技術研究センター、一関工業高等専門学校の産学官連携のモデル事業とし、人づくりによるものづくり技術の向上と、地域企業の活性化と地域連携による企業力の向上、更なる産業の振興を図ってまいりたいと考えております。